

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 18 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03441

研究課題名(和文) 国際・多文化ソーシャルワークにおけるCBPRの有効性に関する実践的研究

研究課題名(英文) Examining the Effectiveness of CBPR in International and Multicultural Social Work

研究代表者

武田 丈 (TAKEDA, Joe)

関西学院大学・人間福祉学部・教授

研究者番号：30330393

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,600,000円

研究成果の概要(和文)：脆弱性の高い多文化のルーツをもつ母子に関して、エンパワメント評価などの参加型の手法や伝統的な質問紙やインタビューといった手法を組み合わせ活用して、日本とフィリピンで4つのCBPRを実施し、各対象グループ(外国人母親、外国人女性HIV陽性者、日比国際児、日比国際児の母親)のニーズの特定とともに、その結果を状況改善やアドボカシー活動のアクションプラン策定・実施に結び付け、それを参加型で継続的に評価していくとともに、コミュニティの当事者へのエンパワメント効果をプロジェクト前後に量的・質的な手法を用いて確認することによって、国際・多文化SWの領域でのCBPRの有効性を確認することができた。

研究成果の概要(英文)：This study examined the effectiveness of CBPR by conducting four research projects on vulnerable mothers and children who have ties with foreign countries. In each CBPR, either/both participatory methods such as Empowerment Evaluation and the conventional methods such as questionnaires and interviews were used to clarify the needs of each community, to make an action plan to improve its community or organization, monitor the project, and evaluate each project collaboratively with people in each community. Although some of the original objectives could not be met due to a lack of time, the results of these four CBPR projects overall indicate that CBPR is indeed an effective approach to empower members as well as communities in international and multicultural social work.

研究分野：ソーシャルワーク

キーワード：CBPR 母子保健 エンパワメント評価 フィリピン HIV 外国人 多文化ソーシャルワーク

1. 研究開始当初の背景

伝統的に社会福祉の対象は社会の中で周縁化されたコミュニティであるが、近年こうしたコミュニティが情報収集だけでコミュニティに対する何の情報や支援も提供しないで去っていく研究者に対し不満を感じていることを、多くの研究者が指摘している[1]。こうした一部の伝統的なリサーチに対する批判から、リサーチのすべての段階に参加者に関与してもらうことで、こうしたコミュニティの懐疑心を克服しようとして発展したのがCBPRである[2]。2000年前後より欧米の社会福祉や公衆衛生の領域で急速に活用されるようになったCBPRとは、「コミュニティの人たちのウェルビーイングの向上や問題・状況改善を目的とし、リサーチのすべてのプロセスにおけるコミュニティのメンバーと研究者の間の対等な協働によって生み出された知識を、社会変革のためのアクションやアドボカシー活動に活用するとともに、そのプロセスを通じた参加者のエンパワメントを目指すリサーチに対するアプローチ(指向)」であり、アクションリサーチ、参加型アクションリサーチ、参加型評価などを含む広範な研究方法論である[3]。

一方、国際・多文化SWの領域で脆弱性が高く、近年もっとも注目されているコミュニティの一つが、多文化のルーツをもつ母子である[4]。母親に関してはリプロダクティブ・ヘルスやHIVを含む母子保健、DV、人身売買、子どもに関しては認知、国籍、アイデンティティ、学校への適応など多様なものが指摘されている[5]。

こうした周縁化の対象となっているコミュニティに対する研究でCBPRを活用することは、ニーズ把握だけでなく、そのプロセスを通じたエンパワメント、研究成果を活用したアドボカシー活動の展開、そしてこうしたアクションの評価の継続的な実施に有効だと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、多文化化が進む日本社会で関心の高まる国際・多文化ソーシャルワーク(SW)の領域でも特に多様な問題を抱えやすく脆弱性の高い多文化のルーツをもつ母子に注目し、研究手法としてCBPR (community-based participatory research=コミュニティを基盤とした参加型リサーチ)を用いることによって、こうしたコミュニティの抱える固有の課題を明らかにするだけでなく、そのプロセスを通じたコミュニティや組織のエンパワメント、研究成果を活用したニーズに対応したサービス設置を訴えるアドボカシー活動の展開、そしてこうしたアクションの評価を当事者参加型で継続的に

実施することで、CBPRの国際・多文化SWにおける有効性を確立していくことを目的とする。

具体的には本研究では、国際・多文化SWにおけるCBPRの有効性を示すため、研究を通して以下のことを達成する。

- (1) ソーシャルワーク、特に国際・多文化SWの分野において、エンパワメントやアドボカシー活動の実践と調査を統合する手法としてのCBPRの有効性の確認
- (2) 多文化のルーツをもつ母子のニーズを明らかにするとともに、そのプロセスを通じたこうしたコミュニティや組織のエンパワメント、研究成果を活用したニーズに対応したサービス設置を訴えるアドボカシー活動の展開、そしてこうしたアクションの評価の当事者参加型による継続的な実施

3. 研究の方法

本研究では、国際・多文化SWにおいて周縁化されたコミュニティのエンパワメントやアドボカシー活動へのCBPRの有効性を検証していく。具体的には、この領域でも特に脆弱性の高い多文化のルーツをもつ母子に関して、エンパワメント評価[6]などの参加型の手法や、伝統的な質問紙やインタビューといった手法を組み合わせ活用して、日本とフィリピンで4つのCBPRを実施し、ニーズや課題の特定とともに、その研究成果を状況改善やアドボカシー活動のアクションプラン策定・実施に結び付け、それを参加型で継続的に評価していく。また、CBPRのコミュニティの当事者へのエンパワメント効果を、CBPRの前後に量的・質的な手法を用いて測定することによって検証していく。4つのCBPRの具体的な研究方法は以下の通りである。

(1) 外国人母子保健調査

調査1では、外国人母子保健に関して、サービス提供者側の保健師と、サービス利用者である外国にルーツをもつ母親に対する多言語での質問紙調査を行う。これまで大阪府下で在住外国人に対する健康相談や、大阪府や大阪市の保健センターから委託を受けて性感染症の抗体検査や相談事業を展開してきたNPOであるCHARM(Center for Health and Rights of Migrants)と協働して日本で出産経験を持つ外国人母親、および外国人母親に対してかわりを持つ保健師に対する質問紙調査を実施し、調査結果をもとにしたニーズや課題に対応したサービスのパイロット事業を当事者たちと参加型で計画・実施、さらにこれらの活動の継続的な評価をアドボカシー活動に活用していく。

(2) 外国人女性 HIV 陽性者調査

調査2では、外国人女性 HIV 陽性者に対する多言語でのインタビュー調査を実施することにより、外国人固有のニーズや課題を明らかにした上で、こうしたニーズや課題に対応したサービス設置を訴えるアドボカシー活動を展開する。CHARM と連携することにより、研究対象者や多言語に対応した調査員の確保が可能となるとともに、研究成果を活用したアドボカシー活動の展開を行う。

(3) 日比国際児調査

調査3については、フィリピン・マニラに拠点を構える日比国際児の当事者組織である Batis YOGHI (Youth Organization that Gives Hopes and Inspiration)、さらに親組織である Batis Center for Women との協働によって、フィリピン在住の日比国際児のニーズを明らかにするとともに、同組織の活動評価に基づいて今後の活動計画を策定し、その計画の実施をエンパワメント評価という手法を活用して継続的にモニターしていく。

(4) 日比国際児の母親調査

調査4については、同じくマニラに拠点を構える日比国際児の母親たちの当事者組織である Batis AWARE (Association of Women in Action for Rights and Empowerment) との協働によって、こうした母親たちのニーズを明らかにするとともに、同組織の活動評価に基づいて今後の活動計画を策定し、その計画の実施をエンパワメント評価という手法を活用して継続的にモニターしていく。

4. 研究成果

(1) 外国人母子保健調査

日本で出産経験を持つ外国人母親に対する調査では、在留外国人トップ3の国にルーツを持つ75人(中国26人、韓国20人、フィリピン29人)から回答を得ることができた。分析結果からは、すべての母親が母子手帳を入手している一方、日本語以外の手帳を持っている者は9.3%(7人)にとどまっていること、手帳交付時の保健師からの説明が母親でなく主に同行者に対して行われたケースが17.3%(13人)あったことが明らかになった。また、母子手帳交付時の説明の理解度に関しては、「代わりに取りに行ってもらった人から説明を受けた人」が最も低く、続いて「自分で取りに行ったが保健師が同行者に説明した人」、そしてもっとも高かったのが「自分が説明を受けた人」であった。やはり直接説明してもらうことが重要であり、そのために通訳を含む多言語サービスが不可欠なことが示された。さらにこうした母親が

日本で安心して出産・子育てのために重要だと思うサービスを優先順位高いものから並べると「子育てサービスの情報(理解できる言葉での)」、「健康についての相談場所(理解できる言葉での)」、「予防接種手帳(理解できる言葉での)」、もっとも優先順位が低かったのが「通訳サービス(母親教室)」であった。

一方、130人の大阪市の保健センターの保健師に対する調査では、91.5%(119名)もの保健師が外国人母親への対応経験を有すること、業務で困難を感じた割合は予防接種説明84.6%、続いて家庭訪問77.6%、母子手帳交付と乳幼児健診77.1%、妊婦教室は19.0%と低かったことがわかった。必要と思うサービスはもっとも多かったのが家庭訪問時通訳、続いて乳幼児健診多言語資料、母子手帳交付時通訳という順であった。一方必要と思う多言語資料に関しては、もっとも多かったのが母子保健の全体の流れ・制度のわかる資料、続いて予防接種・乳幼児健診で使う資料、乳幼児家庭訪問の際に使用する資料や連絡メモという順であった。

(2) 外国人女性 HIV 陽性者調査

2015年度の7名の外国人女性 HIV 陽性者への個別インタビュー調査で抽出された課題を、2016年度のグループディスカッションでの議論を通してお互いの状況を共有するとともに、どんな支援が役にたったか、またはどんな支援がほしかったかを話し合った。最終年度の2017年度はこれまでの話し合いの中から女性たちが医療従事者に知らせたいことに関して、フォーカスグループミーティングを4回実施し、検討を重ねた上で「在留資格」「言葉の問題」「日本の医療・社会保障制度を知るまたは理解することの難しさ」「生活面で抱える問題」「診察場面で期待すること」「生きるためにきめたこと」という6つの項目を抽出した。

(3) 日比国際児調査

2015年11月に12名の Batis YOGHI のメンバーが参加して3日間のエンパワメント評価の手法を用いて、ミッションの確認、現状把握分析(ベースライン評価)そして「組織運営」「教育・トレーニング」「アドボカシー・ネットワーク」「ファンレイジング」「リクルート」という5つの活動についてそれぞれにアクションプランとベンチマーク設定を行った。そして、2017年1月、2018年3月に、エンパワメント評価のワークショップを開催して、アクションプランの進捗状況やベンチマークの達成度合いの確認と、アクションプランの修正などを行った。こうしたプロセスを通して、組織としてこの3年間に、隔月の幹部ミーティング開催、月2回の

日本語教室、年1回のキャンプとトレーニングを開催することができた。

(4) 日比国際児の母親調査

2015年8月に20名のBatis AWAREのメンバーが参加して4日間のエンパワメント評価の手法を用いて、組織としての新しいミッションの設定、現状把握分析(ベースライン評価)そして「ミーティング」「パティス女性センターとの対話」「能力開発」「ファンドレイジング」「経理」の活動のアクションプランとベンチマーク設定を行った。そして、2016年8月、2017年8月にエンパワメント評価のワークショップを開催しアクションプランの進捗状況やベンチマークの達成度合いの確認と、アクションプランの修正などを行った。こうしたプロセスを通して、組織としてこの3年間に、毎月の幹部ミーティング開催、年4回の全体ミーティング、年数回のトレーニングを開催することができた。

(5) まとめ

「外国人母子保健調査」では、研究によって明らかになった日本で出産・子育てする外国人母親に必要な情報が母親たちに届くように冊子『日本で出産・子育てする外国親のみなさんへ』を制作するとともに、大阪市の保健局に対して通訳サービスの設置・利用を求めるアドボカシー活動のための資料作成を行った。パイロット事業の立ち上げや、プロセスを通じた外国人母親や現場の人たちのエンパワメントの度合いの確認までは行き着くことはできなかったが、今後は行政へのアドボカシー活動を展開する予定である。

「外国人女性 HIV 陽性者調査」では、抽出した6つの項目に関して、それぞれ女性たちのエピソードや医療従事者へのメッセージのほか、実際に HIV 診療に携わる医者や看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーが経験した事例、外国籍住民を支援している NGO の支援内容を掲載した、『つむぐひと：外国人陽性女性から医療従事者へ』というタイトルの冊子を、2018年1月に1500部発行し、全国176箇所の拠点病院と85箇所の保健センターおよび7箇所の NGO や関連機関、合計268箇所に送付するアドボカシー活動を展開した。

「日比国際児調査」では、エンパワメント評価のプロセスを通して先述の活動を実施するとともに、これらのプロセスを通してメンバーの個人的成長とともに、組織内における責任感の芽生えが確認できた。Batis YOGHI を支援している Batis Center for Women のスタッフによる「組織内のリーダーシップ確立が組織内の構造化や体系化を生み出した」「幹部がそれぞれの役割や機能をしっかり

と認識できた」「メンバーが組織の目標をしっかりと理解し、表現できるようになった」「アクションプランの設定およびその評価できるようになった」といった観察は、パティス・ヨギのメンバー個人としての、また組織自体の成長を表している。

「日比国際児の母親調査」では、エンパワメント評価のプロセスを通して先述の活動を実施するとともに、これらのプロセスを通してメンバー個人および組織としての成長が確認できた。組織に関しては下図のように、毎年エンパワメント評価の現状把握で組織の各活動が年々改善していることがわかる。振り返りのフォーカスグループインタビューからも、この期間のトレーニングや研修の開催によるメンバーたちの知識、態度、技術の向上、ネットワークの拡大、理事会からのサポート増大、メンバー間の関係や連帯感の高まりが確認できた。また、組織としての役割分担や体制強化、さらには方針の共有化も確認できた。

活動	2015	2016	2017
Fund Raising	3.9	5.3	6.9
Meetings	4.2	8.8	9.1
Ed. & Training	4.3	9.0	9.2
Membership		5.8	7.0
Social Enterprise	4.2	5.7	6.3
Budgeting	3.9	6.7	9.4
Advocacy	3.9	8.8	7.1
Networking	4.5	9.0	7.9

(各メンバーが10点満点で評価した点数の平均)

このように、国際・多文化 SW の領域における4つの調査研究からは、今後の活動や評価の内容を見守る必要がある部分もあるが、CBPR がコミュニティの抱える固有の課題を明らかにするだけでなく、そのプロセスを通じたコミュニティや組織のエンパワメント、研究成果を活用したニーズに対応したサービス設置を訴えるアドボカシー活動の展開への有効性が確認でき、CBPR の国際・多文化 SW における有効性を確立できたと考えられる。

<引用文献>

- [1] Cargo, M., & Mercer, S. L. (2008) The value and challenges of participatory research: Strengthening its practice. *Annual Review of Public Health, 29*, 325-350. Maciak, B. J., Guzman, R., Santiago, A., Villalobos, G., & Israel, B. A. (1999) Establishing LA VIDA: A community-based partnership to prevent intimate violence against Latina women. *Health Education &*

Behavior, 26(6), 821-840. 宮本常一・安溪遊地 (2008) 『調査されるという迷惑 フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版. Wallerstein, N. B., & Duran, B. (2006) Using community-based participatory research to address health disparities. *Health Promotion Practice*, 7, 312-323.

- [2] Cochran, P. A., Marchall, C. A., Gracia-Downing, C., Kendall, E., Cook, D., McCubbin, L., & Gover, M. S. (2008) Indigenous ways of knowing: Implications for participatory research and community. *American Journal of Public Health*, 98(1), 22-27.
- [3] Israel, B. A. Eng, E. Schulz, A. J., & Parker, E. A. (Eds.) (2013) *Methods in community-based participatory research for health* (2nd ed., pp. 3-37). San Francisco, CA: Jossey-Bass. Minkler, M., & Wallerstein, N. (Eds.) (2008) *Community-based participatory research for health: From process to outcomes* (2nd ed). San Francisco, CA: Jossey-Bass. CBPR研究会 (2010) 『地域保健に活かすCBPR』医歯薬出版.
- [4] 季節子 (2014) 「これからの多文化共生社会における母子保健のあり方」『保健の科学』56(4), 220-228.
- [5] 原めぐみ (2011) 「越境する若者たち、望郷する若者たち」『グローバル人間科学紀要』4, 5-12. 武田文 (2005) 『フィリピン女性エンターテイナーのライフストーリー』関西学院大学出版会.
- [6] Fetterman, D., & Wandersman, A. (Eds.) (2005) *Empowerment evaluation principles in practice*. New York: Guilford. (笹尾敏明・玉井航太・大内潤子訳 (2014) 『エンパワーメント評価の原則と実践 教育、福祉、医療、企業、コミュニティ介入の改善と活性化』風間書房).

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

武田文、関学レインボーウィークを通じた多様なセクシュアリティ尊重のためのソーシャルアクション、*Campus Health*、査読有、55(2)、2018 刊行予定、頁数未定

Joe Takeda & Rosalie C. Otero-Yamanaka、

Participatory action research as an approach to empowerment of self-help groups: Facilitating social and economic reintegration of women migrant workers、*Kwansei Gakuin University Social Sciences Review*、査読無、22、2018、1-18

榎本てる子・岡嶋宙士・工藤万里江、キリスト教主義大学における LGBT 学生に対する人権保障の取り組みに関する調査、*関西学院大学人権研究*、査読無、21、2017、1-13

メンセンディーク マーサ、平和とキリスト教と社会福祉：そのラディカルな使命、*キリスト教社会福祉学研究*、査読無、49、2017、7-15

武田文、多様性の尊重とソーシャルワーク：人権を基盤としたアプローチ、*ソーシャルワーク研究*、査読無、42(2)、2016、74-86

武田文、CBPR (参加型アクションリサーチ) の概要と実践例：日本の大学での普及に向けて、*調査と資料*、査読無、114、2016、278-293

小林和香・飯塚諒・武田文・北山雅博、関学レインボーウィークが提示する LGBT 施策のあり方、*関西学院大学人権研究*、査読無、20、2016、33-41

武田文、コミュニティを基盤とした参加型リサーチ (CBR) の展望：コミュニティと協働する研究方法論、*人間福祉学研究*、査読無、8(1)、2015、12-25

榎本てる子、HIV カウンセリングの現場から：「スティグマ」からの解放を目指して (特集 教会と性)、*福音と世界*、査読無、70(6)、2015、12-17

[学会発表](計 2件)

Joe Takeda、Reintegration of Women Migrants Whose Human Rights Were Violated Overseas: Participatory Action Research as the Approach for Empowerment of Self-Help Group、International Conference on National Human Rights Mechanisms in Southeast Asia: Challenges of Protection (Asia Centre, Bangkok, Thailand)、2017年7月

Joe Takeda、Empowering and Advocating War Survivors Using Photovoice:

Passing their Stories down from
Generation to Generation in a Small
Village in the Philippines、HDCA
(Human Development and Capacity
Association) 2016 Conference,
(Hitotsubashi Univ., Tokyo)、2016年
9月

〔図書〕(計 2件)

武田文ほか、牧里每治監修、明石書店、
地域で支える外国人支援ハンドブック、
2018 刊行予定、頁数未定

山本隆・武田文編著、関西学院大学出版
会、社会起業を学ぶ：社会を変革するし
ごと、2018、160 (9-19 & 155-156)

〔その他〕

研究成果に基づく啓発・アドボカシー冊子
日本で出産・子育てする外国人親の皆さんへ、2018、2000部

つむぐひと：外国人陽性女性から医療従
事者へ、2018、1500部

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武田 文 (TAKEDA, Joe)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：30330393

(2) 研究分担者

榎本 てる子 (ENOMOTO, Teruko)
関西学院大学・神学部・准教授
研究者番号：60509909

メンセンディーク マーサ (MENSEN DIEK,
Martha)
同志社大学・社会学部・准教授
研究者番号：00288599